

容リ法改正対策委員会 2024年度活動報告

2025年6月3日(火)

紙製容器包装リサイクル推進協議会

「自主行動計画2025」フォローアップ報告

【自主行動計画2025】

- 環境に配慮した3Rの推進や主体間の連携に資する取り組みの一層の充実を図る
- 紙製容器包装リサイクル推進協議会の目標及び3年度目にあたる2023年度実績
 - ① リデュースの数値目標(15%)に対して21.1%
 - ② 回収率の数値目標(28%)に対して22.4%

▶ 産業構造審議会 イノベーション・環境分科会

- 産業構造審議会イノベーション・環境分科会資源循環経済小委員会では、2023年9月から2024年12月の間で開催された小委員会で「成長志向型の資源自律経済戦略の実現に向けた制度見直しに関する取りまとめ」を審議し、2025年2月に報告されました。
- 再生材利用拡大に向け、制度的枠組みを構築することになります。

CLOMA (グリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)

- 紙に直接係わる部分である、Key action 4&5 の「代替素材の開発・利用(紙・バイオプラ等)」においては、法規制・基準分科会ではリサイクルの観点から「紙製容器包装の識別表示の区分」の在り方を、再資源化分科会では「未利用の紙系廃棄物、複合素材廃棄物のリサイクルについて」を討議課題として取り組みました。

名古屋市が「紙製容器包装」を容リルートから離脱

- 名古屋市が、2023年度より製紙原料向け「紙単体紙製容器包装」を容リルートでの回収から離脱し、紙小物を含む「雑がみ」との混合回収に拡大して古紙ルートでの回収に変更しました。
- RPF等の固形燃料に再商品化する「複合紙製容器包装」のみ引き続き容リルートでの回収を継続していますが、容リルートでの全国回収量は、2022年度2.0万トンから昨年1.4万トンに減少しましたが、2024年度は1.3万トンまで減少しました。

複合品(複合紙製容器包装)リサイクル推進WG

▶複合品(複合紙製容器包装)リサイクル推進WGの発足

- 複合品(複合紙製容器包装)の収集・リサイクルの推進を提言していること、「プラスチック資源循環促進法」の施行にともない「基本的な方針」の告示で、「再生可能資源(紙、バイオマスプラスチック等)に適切に切り替え」と「紙」について明確に位置付けていただきましたが、プラからの「紙化」を進めるにあたり「複合品」についてもリサイクルすることが求められているため、複合品(複合紙製容器包装)リサイクル推進WGを設置しました。

複合紙製容器包装の排出量

・汚れた複合品を含めた排出量の拡大推計

紙製容器包装の内訳(複合品の汚れたものを含む)

産構審発表紙製容器包装の2023年度業種全体排出見込量：635,501トン

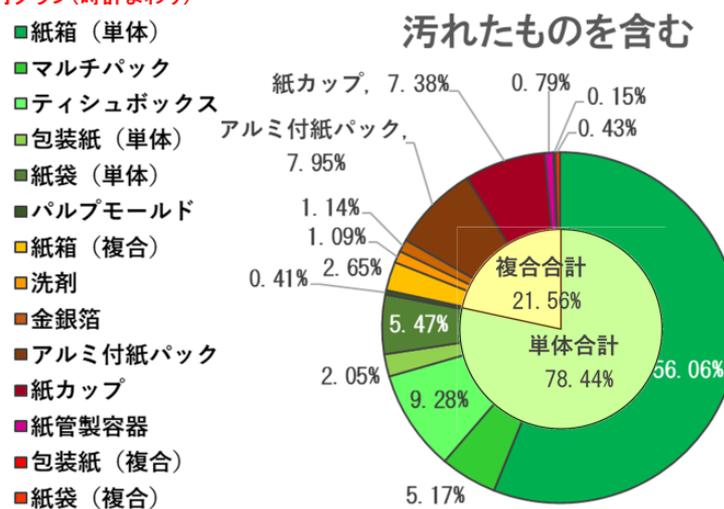
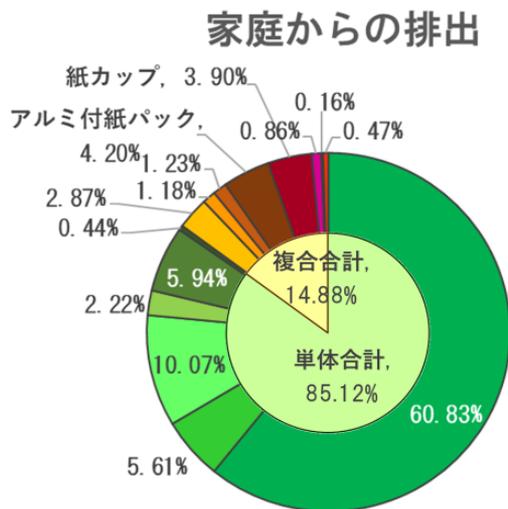
紙単体合計：540,924トン(85.1%)、複合品合計：94,577トン(14.9%)

複合品(複合紙製容器包装)の汚れたものを含めて推計すると

複合品合計：149,617トン (21.6%)

- アルミ付紙パック：54,800トン (7.9%)
- 紙カップ(紙トレイ含む)：50,867トン (7.4%)
- その他複合品：43,950トン (6.2%)

円グラフ(時計まわり)



紙製容器包装リサイクル推進協議会データ

複合品(複合紙製容器包装)リサイクル推進WG

➤ 目的・理由

- 「プラスチック資源循環促進法」の施行に伴って、「再生可能資源(紙、バイオマスプラ等)」に適切に切り替え「紙化」を進めるに当り、複合品の、収集およびリサイクル推進を求められているため

➤ 求められる取り組み・目標

- 複合品に関するアンケート調査、自治体の関心度や焼却炉更新時期などから訪問自治体を検討
- 自治体、省庁、リサイクル業者等への働きかけ

複合品(複合紙製容器包装)リサイクル推進WG

➤2024年度活動内容

- 第1回複合品リサイクル推進WG開催(7/26)
初年度訪問目標10自治体を目指す
- 自治体訪問(2024年度10自治体訪問;目標達成)
福井市、岐阜市、江戸川区、古河市、町田市、
吹田市、焼津市、門真市、北九州市、前橋市
- 紙推進協議会パンフレット全面改訂
汎用性を残しながら複合品リサイクルに対応
- 第2回複合品リサイクル推進WG開催(1/31)
市区アンケート調査結果報告、活動計画討議

容り法改正対策委員会 2024年度活動報告

完